

# 【林道橋梁点検診断業務委託】

## 特 記 仕 様 書

北秋田市産業部 農林課

## 1. 設計業務共通仕様書の適用

本業務の施行にあたっては、「秋田県土木工事共通仕様書（令和6年10月1日以降適用）」にもとづき実施しなければならない。

## 2. 共通仕様書に対する特記事項

共通仕様書に対する特記事項は次のとおりとする。

# 第1章 総則

## 第1条 業務内容

本業務は、北秋田市産業部農林課が管理する林道橋梁の点検業務である。

## 第2条 業務の目的

北秋田市が管理する橋梁について、点検を行って劣化・損傷状況を把握することにより、耐荷力・耐久性の診断と適正な維持管理を行うための資料を得ることを目的とする。

## 第3条 管理技術者及び照査技術者

①管理技術者は、(1)～(2)のいずれかの資格保有者であって、過去5年間に林道橋梁点検業務に従事した実績を有する者とする。

(1)技術士（①～③のいずれか）

①建設部門（選択科目を「鋼構造及びコンクリート」に限る）

②森林土木部門（選択科目を「森林土木」に限る）

③総合技術管理部門（選択科目を「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか）

(2)技術士同等（建設コンサルタント登録規程第3条第1号ロに該当するもので「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか）

②照査技術者は、(1)～(3)のいずれかの資格保有者であって、過去に橋梁点検（橋梁補修設計における現況調査を含む）と同等の業務に従事した経歴は不要とするものとする。なお照査技術者は管理技術者及び第4条に規定する点検技術者を兼ねることはできない。

(1)技術士（①～③のいずれか）

①建設部門（選択科目を「鋼構造及びコンクリート」に限る）

②森林土木部門（選択科目を「森林土木」に限る）

③総合技術管理部門（選択科目を「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか）

(2)技術士同等（建設コンサルタント登録規程第3条第1号ロに該当するもので「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか）

(3) R C C M (「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか)

#### 第4条 実施体制

本業務の点検技術者は、3名以上の編成により、うち1名については下記(1)～(4)のいずれかに該当するものとし、管理技術者が兼務できる。その他2名は下記(1)～(5)のいずれかに該当するものとする。

(1) 技術士 (①～③のいずれか)

① 建設部門 (選択科目を「鋼構造及びコンクリート」に限る)

② 森林土木部門 (選択科目を「森林土木」に限る)

③ 総合技術管理部門 (選択科目を「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか)

(2) 技術士同等 (建設コンサルタント登録規程第3条第1号ロに該当するもので「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか)

(3) R C C M (「鋼構造及びコンクリート」か「森林土木」のいずれか)

(4) 道路橋点検士

(5) 過去5年以内に林道橋梁の点検業務に従事した実績を有すること

#### 第5条 打合せ

点検業務着手時、点検において劣化・損傷の診断の観点から打合せは必要と判断される時および点検業務完了時において行うものとし、標準打合せ回数は3回とする。

なお、点検業務着手時および点検業務完了時の打合せには、管理技術者が立ち会うものとする。

#### 第6条 業務計画書

業務計画書は、「秋田県土木工事共通仕様書(令和5年10月1日以降適用)」にもとづき作成するものとし、第1回打ち合わせ後、速やかに提出しなければならない。

#### 第7条 資料の貸与

貸与する図書及びその他の関係資料は次のとおりとする。

1. 調査員が必要と認めたもの

## 第2章 業務内容

### 第1条 対象橋梁

本業務の対象となる橋梁名、点検面積及び作業標準等は数量表のとおりである。

### 第2条 使用する主な図書及び基準

林野庁インフラ長寿命化計画（行動計画）

平成26年8月策定、令和3年3月改定 林野庁

林道施設に係る個別施設計画策定のためのガイドライン

平成27年3月策定 林野庁整備課

林道施設長寿命化対策マニュアル

平成28年3月策定 林野庁整備課

その他関係図書

### 第3条 業務内容

本業務の内容は、下記(1)～(4)に示すとおりとする。なお、項目に変更が生じた場合は調査職員と協議するものとする。

#### (1) 準備作業

本業務の実施にあたり、必要となる既存資料を収集するとともに、損傷図作成のための下図作成に要する準備作業を行うものとする。

#### (2) 現地踏査

##### 1. 現地踏査

現地に赴き点検対象施設の変状程度を把握するほか、周辺環境、交通規制の要否、近接方法等について概況調査し、記録整理（写真撮影、現地踏査報告書等を含む）を行うものとする。また、現地踏査終了後、速やかに次の記載事項を記載した現地踏査報告書を作成し、調査職員と協議するものとする。

①数量表（当初計画と現地踏査結果を対比したもの）

②安全管理体制

③上記①・②を説明する橋梁ごとの調査記録

##### 2. 実施計画書

現地踏査報告書に基づく協議終了後、速やかに橋梁点検実施計画書を調査職員に提出するものとする。

なお、実施計画書に記載する事項は以下のとおり。

①業務内容

②業務手順及び実施方法

③実施体制

- ④実施工程表
- ⑤安全管理計画（交通規制を含む）
- ⑥点検数量表
- ⑦連絡体制（緊急時を含む）

### (3) 橋梁点検

業務実施に際しては、下記 1～4 に示すとおりとする。

#### 1. 近接目視点検

設計図書に基づき徒歩（梯子併用）を基本とし、近接が不可能な部位については遠望目視点検を行うものとする。また必要に応じて機械・器具を用いて点検する。

※機械・器具とは、テストハンマー、スチールテープ、ノギス、ワイヤーブラシ、クラックゲージ等である。

※橋長 15 m 未満の橋梁においては徒歩を基本とし、近接が不可能な部位については遠望目視（双眼鏡利用等）にて行ってよい。

#### 2. 点検の内容、損傷の評価

点検及び損傷の評価については、基本的に林道施設長寿命化マニュアル（林野庁整備課）により行うものとする。

#### 3. 点検記録

記録については、「林道施設長寿命化マニュアル（林野庁整備課）」に基づき行うものとする。

#### 4. 緊急対策の報告

緊急対策が必要な劣化・損傷及び著しい劣化・損傷（部材単位の診断：Ⅳ（緊急措置段階））を発見したときは、速やかに調査員に報告し、立会を求めること。

#### 5. 応急措置

第三者被害が予想される劣化・損傷が認められた箇所は、応急措置を行うこと。はく離した塗膜やコンクリートの叩き落とし、緩んだナットの締め直し、落下の恐れがある部材等の撤去等、点検で携行できる器具によって対応可能な範囲で実施すること。その場合は措置前後の状況写真等で記録しておくものとする。

応急措置により発生したはく離片、コンクリート殻、撤去品等の運搬・処分については調査職員と別途協議するものとする。また、はく離やうきの範囲が広い場合や P C 桁等を叩き落すことによって構造の安全性が損なわれる恐れがある場合は、調査職員と協議するものとする。

#### 第4条 点検資料整理

現地で得られた資料を内業で整理するものであり、写真及び点検記録の整理とりまとめを行うものである。

#### 第5条 報告書作成

林道施設長寿命化マニュアル（林野庁整備課）をベースにした報告書作成業務であり、橋梁諸元と総合検査結果、全体図・一般図、現地状況写真、部材番号図、損傷図、損傷写真台帳、点検帳票の作成を行う。

### 第3章 成果品

#### 第1条 成果品の提出

成果品として次のものを提出するものとする

1. 橋梁点検報告書（A4製本） 1部
2. 橋梁点検報告書（電子データ） 1部
3. 点検野帳（電子データ） 1部

#### 第2条 報告書の様式

報告書の様式及び形態の詳細は、次のとおりとする。

##### （1）A4製本で提出する成果品

製本はA4チューブファイルを用い、一連の報告書を合冊する。（厚くなった場合は分冊して差し支えない）また、報告書ごとに中仕切りを入れ、橋梁各他のインデックスをつけるものとする。

##### （2）電子データ

電子データ媒体はCD-Rとし、ラベル印刷を行うこと。